

日本で就職する時の心がけ

(株)バブコック日立呉工場 松田 陸 (杜 盛漢)

(工学研究科 昭和58年3月修了)

大学院卒業直前に、太田恩師のアドバイスをいただいて、現在、勤務中のバブコック日立（以下 BHK）で実習をしました。当初、BHK を選んだのは、もちろん、日立での高度な技術を身につけることが目的の一つでした。また、BHK の主要製品は、東南アジアを始めとして、世界各国に輸出されており、従って、海外での技術営業、アフター・サービス等の業務があると考え、私の経歴や技術を生かせると考えたからです。なお、BHK は特に広大工学部の近くに位置しており、就職しても、元の研究室と絶えず、専門的な技術面で交流することが可能であります。これらの理由で、BHK に入ることを決めたと、同年度の新社員と一緒に、筆記試験及び面接試験を受けました。

新入社員のリストを見ますと、同期とは、ひとまわりも年が違いました。また、学科別で見ますと、電気出身者は、新入社員29人の中に、わずか3人しかいませんでした。その他は、機械、化学工学の出身ばかり、言わば、BHK の仕事は、機械、化学工学の知識が必要です。そして、二年間の研修期間内に、三つの条件（論文、翻訳発表、研修員論文発表及び一定の英語検定レベル）を達成しないと、企画職を与えられません。このような窮境の中で、私が一つ一つ克服し、丸六年四か月に至っております。会社は厳しいが、厳しいこそ、勉強の意欲がわいてくるのは、私の性格であります。いくら難しいことがあっても、誠心誠意に取り組んで行けば行くほど、暁の光が見えるでしょう。

入社以来、六年余りの歳月に、社内六つの設計部の中で、計三つを経て、種々の設計担

当を経験しました。初めて、職場転換する時、口では言えないぐらい抵抗感が出て来ました。しかし、新しい職場の人達と交流するうちに、忘れてしまいました。一年前、帰化完了直前に、工場の窓口（技術部）に転職され、現在、輸出関係の仕事を担当しています。一年間の仕事をふりかえって見ますと、当初、なぜ私だけ職場を転々と換えたのかが分かりました。会社の計画、方針であります。幾つも職場を換えたら、深くまでの知識が得られないけれど、職場の仲間が増えることで、これらの欠如がカバーされます。

さて、これから日本に就職したい留学生の方々に、一言アドバイスを差し上げたい。

1. 日本の歴史、文化、習慣等の習得が必要
職場には、パーティーのチャンスが多いので、話題の種づくりもあるし、日本人同士との付き合いもある。仲間に入ることが大切です。
2. 集団精神を身につける

ある日の雑誌が「アメリカは狩猟民族、日本は農耕民族」と載っている。狩猟民族は決して悪い意味ではないが、日本よりはるかに個人主義である。農耕民族はコソコソ種をまいて、収穫まで待つが、これが日本的性格を育成し、集団主義の象徴的な例である。

3. 常に感謝の心を持つ

遠い国から勉強に来て、また、その国で就職するのは、確かに縁があると言える。心に常に感謝の意を持ったなら、その人は寂しくならない。

4. ボランティア活動の参加

人類は「助けあい」動物であり、もらうより与えるほうが楽しいである。ボランティア活動として、例えば、献血、バザー等がある。

その他、自己啓発も重要な課題であります。私自身も、まだたくさんの理想を立てていないので、これからも、勉強しながら心がけ

滑なコミュニケーションを計るようお願いいたします。

（英語） 新 出 語 一 職 工 資 本 社 員 の 一 人 として

（文） 日本経済新聞 1987年10月10日

（文） 日本経済新聞 1987年10月10日 10月10日、日本経済新聞の「新出語」欄に「職工資本社員」という言葉が紹介された。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。

（文） 日本経済新聞 1987年10月10日 10月10日、日本経済新聞の「新出語」欄に「職工資本社員」という言葉が紹介された。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。

（文） 日本経済新聞 1987年10月10日 10月10日、日本経済新聞の「新出語」欄に「職工資本社員」という言葉が紹介された。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。

（文） 日本経済新聞 1987年10月10日 10月10日、日本経済新聞の「新出語」欄に「職工資本社員」という言葉が紹介された。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。



（文） 日本経済新聞 1987年10月10日 10月10日、日本経済新聞の「新出語」欄に「職工資本社員」という言葉が紹介された。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。これは、企業が従業員を「社員」として扱うようになったことを示している。従来、従業員は「職工」として扱われていたが、最近では「社員」として扱われるようになった。